

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 0473100469, 特定非営利活動法人よつば荘, グループホームよつば荘, 宮城県遠田郡美里町北浦字船入2番地61, 令和5年2月3日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な事業所を理想とし、利用者様とのコミュニケーションをととても大切にしている。利用者様の訴えに耳を傾けてすぐに対応できるように、職員間での報告・連絡・相談・情報の共有を大切にしている。また、提供する食事は全て手作りで提供している。親戚や近所から頂く野菜も多く、それを使って利用者様と一緒に料理をしたり、買い物に同行したりと、何気ない日常が利用者様にとって認知症の進行を遅らせるとともに、安全で楽しい生活を送って頂けるのではないかと毎日工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL. Value: http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会, 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階, 令和5年3月2日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR小牛田駅から西へ徒歩約5分、県道19号線に面し外壁にシンボルマークの四つ葉のクローバーがある。近隣に商店街があり、職員と一緒に食材やおやつ等の買物に出掛ける楽しみがある。目標達成計画に上げた「ホームで運営推進会議を開催しメンバーから意見を聞く」は2回実施した。「内部研修で高齢者の栄養学を学ぶ」については、町の管理栄養士等による研修を受け達成している。職員は理念である「ゆったり・ゆかいに・ゆたかに」を念頭に、一人ひとりの生活リズムや思いを大切に、ゆっくり急がずに見守り、個々に寄り添ったケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation status.

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用したことはないが、研修に参加して勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際などは文章を送付し、理解を得るようにしている。疑問があれば電話にて相談に応じることもあった。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の提案で考えた脳トレレクリエーションを職員と一緒に作り、他利用者にレクリエーションを発表することができた。	面会や利用料持参の際、意見や要望等を聞いている。以前は居室や職員控室で面会していたが現在は玄関先に限定している。夏冬の衣類入替や外出の要望に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング面談する機会を設け、話し合いをしている。おむつの当て方の工夫や料理の味付けなど、色々な部分で職員の意見を反映させている。	職員から湯船に入る際に「浴槽の縁を掴めると良い」との意見があり手摺りを付けた。尿量が多くなった方のパッドを夜間は大き目のパッドに変更した。各種研修や資格取得、勤務時間の変更等は柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の貢献度や給与水準についてはキャリアパス制度に基づき整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるようにシフトの調整をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美里町主催の研修会や連絡会に参加し、意見交換している。	美里町のグループホーム協議会加入し交流がある。町の調剤薬局の管理栄養士や薬剤師に「貧血と糖尿病」について講演してもらい、入居者も熱心に聞き質問をしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴中や居室など、一対一になる時に意見を聞いたり、希望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訪問時に状況報告をしている。お互いに必要なことなどを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握し、ニーズを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣食住を共にする家族という関係を築けるように、掃除・食事は一緒に行うようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係が良好なものであるように、時には外出支援や通院をお願いすることもある。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅近くまでドライブに行ったり、利用者の近所の方が面会に来ていただくこともある。	ドライブや散歩で、昔の職場や自宅、子供のころ遊んだ所など、懐かしい場所を選んで通っている。季節毎、家族に入居者制作の絵葉書を出している。近所の友人が訪ねて来たり、友人と手紙を交換する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間に自己紹介したり、生い立ちや昔の思い出などを話してもらえぬ雰囲気を作っている。職員が間に入って楽しく会話出来るように空間作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった利用者は病院関係者とのつながりによって状況を報告されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が抱える悩みや希望を聞き取り、反映出来るように職員間でも共有し、支援している。	入居者提案の「脳トレゲーム」を職員と一緒に作り、レクリエーションの場で発表した。服や靴が欲しい方は一緒に商店街へ買い物に出掛けている。入居間もない方には居室で寄り添い思いを傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族や本人から生活歴を聞き、基本情報を作成する。情報共有のミーティングを行い、周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察・記録し、ケアに努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者の情報を基にミーティングを実施し、ケアマネジャーが現状にあった介護計画を作成している。	定期的見直しは6ヶ月で、状態変化時には都度対応している。職員会議やケース記録・連絡ノートを見て職員に確認し、ケアマネが計画を作成している。筋力維持のためのラジオ体操を継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や連絡ノートを見て申し送りを行っている。その日に合わせたケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に気づき、本人の意思を尊重して対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が落ち着けば、包括センターからの紹介で、地域の体操レクリエーションへの参加を希望している。残存能力を活かした支援を心掛けている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要になれば家族へ連絡し、かかりつけ医へ受診している。受診後、家族へ連絡又は手紙で内容を細かく説明している。	5名が協力医で3名がかかりつけ医に通院している。精神科への通院以外は、看護職員が付き添い、医師と情報を共有している。受診結果は家族へ連絡すると共に職員間で共有している。訪問歯科は1名が受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師に相談し、適切な措置をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があれば時間外に関わらず受診しており、十分な理解と協力がある。サマリーなどで情報交換の体制を整えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向を本人、家族に確認している。医師の判断と家族の意向に添えるようお話している。	看取りに関する指針は明文化している。入居時に「看取りの指針」を説明し、重度化した場合の対応について同意を得ている。本人や家族の希望があれば看取りを行える環境にあるが、病院を希望する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が主催の事故発生研修を行っている。AEDの使い方はコロナが落ち着いたタイミングで消防署に依頼している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め、年2回避難訓練を実施している。コロナの為協力体制は築けなかったが、区長に相談することも出来ている。	コロナ禍で地域住民の参加は自粛し、夜間想定を含み年2回避難訓練を実施している。自立歩行の方でも、避難には車椅子を利用する方が早いことを確認した。地震でスーパー閉店の際は、非常食を活用した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の掃除をする時やタンスを開けるときなど、本人と一緒にいる時にするよう気を付けている。名前は「さん付け」で呼んでいる。	名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入るときはノックし、返事がない時はドアについている小窓で確認している。入居者同士のトラブルには、リビングの座席を向かい合わないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話してくれたことを否定せず、傾聴するように心がけている。「どちらがいいのか」というような質問をし、自己決定出来るように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やレクリエーション・入浴など実施が決まっている事でも本人の意向を確認してから参加してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新しい洋服を買いに外出しオシャレを楽しんでいる。散髪も定期的に行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、利用者に食べたいものを尋ねてその日の献立にすることがある。食事の準備、後かたづけも利用者で行っている。	献立は職員が交代で作成し、年2回は町の管理栄養士に見てもらっている。入居者の希望は麺類が多い。行事食で「おせち」「ピザ」を外注し喜ばれた。地域の方から野菜を沢山貰った時にはメニューを変更する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食べた量、水分量を記録している。誤嚥の恐れがある方にはトロミやゼリー飲料を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時、声かけをして一部介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、声掛け・誘導している。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導でトイレでの排泄に努めている。失敗の際は「汗をかいたから着替えましょう」と居室やトイレに誘導する。夜間は巡回時に、ポータブルトイレやオムツ等個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックと運動、野菜を多く取り入れたメニューを提供し、自然排便を促している。医師の指示にて下剤の服用も考慮している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週4日に入浴の日を決め、その中で利用者の希望に合った日に入浴している。	入浴日が週4日あり、希望の日に週2回以上の支援をしている。拒否する方の入りたくない要因を推し量るようにし、日を改めて対応している。皮膚疾患のある方には保湿クリームやワセリンを塗って処置をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンと規則正しく生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化には日々申し送りしている。服薬ファイルを作り職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や料理が好きといった利用者の生活歴を把握し、職員とともに台所に立つこともある。レクリエーション活動で雑巾縫いを行ったこともある。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と相談し、散歩やドライブなどに出かけている。コロナ禍で積極的には外出していない。家族の希望があれば家族と利用者が外出することもある。	天気の良い日は、ホーム周辺の散歩や近くのスーパーに買い物に出かける。花壇の花や野菜の手入れをするのも気分転換になっている。素山公園の桜や松山のコスモス等、季節を感じるドライブをした。夏祭りでは職員の子供達と花火大会をして楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、買い物の外出支援を行っている。また、レクリエーション活動でお金の計算脳トレを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時、電話の貸し借りや手紙の投函を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、利用者が制作した工作など飾っている。	リビングや廊下等共用空間には、書初めや行事の写真が貼られ、一緒に制作した折り紙の雛人形や吊るし雛が季節を感じさせている。ラジオ体操に始まり、制作活動やかるた取り、トランプ等で皆と楽しく過ごせる憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶の時間以外は一人で思い思い過ごされている。好きな時にリビングでくつろいでらっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や布団など、出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただいている。	居室には備品としてエアコンやタンスがある。掃除は担当職員が掃除機をかけ、入居者がモップ掛けや手摺り拭き等を一緒にする。家族の写真や仏壇、テレビ等があり、読書や裁縫、発声練習等、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の席が覚えられない利用者には椅子に名前を書いたり、タンスに何が入っているか分かるようにシールを貼っている。		